

氏名	大 守 伊 織
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1379 号
学位授与の日付	平成7年3月31日
学位授与の要件	医学研究科 内科系脳代謝医学(難病科学, 小児科学)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	生後6カ月未満発症の局在関連性てんかんに関する研究
論文審査委員	教授 庄盛 敏廉      教授 黒田 重利      教授 清野 佳紀

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

生後6カ月未満発症の局在関連性てんかんの臨床的脳波学的特徴を明らかにするため、発症時より1年以上追跡されている28例を対象に検討した。治療により1年以内に発作が抑制され、その後発作を認めない症例を抑制群(8例)、その他の症例を難治群(20例)に分類し、両者を比較検討した。

難治群では以下の特徴をもっていた。(1) 大半が重篤な基礎疾患をもつ。(2) 発作型は単純部分発作または複雑部分発作のみの症例が多い。(3) 発作の様相が多彩であることが多い。(4) 発作間歇期脳波は基礎波に局在性異常や高度律動異常を認め、多焦点性てんかん波を示し、経過中てんかん波の広汎化傾向を示す症例が多い。(5) のちに全般てんかんに変容する症例や全般発作またはpseudoabsenceが追加出現する特異な症例群が認められる。

乳児早期発症の局在関連性てんかんでは、発症時および経過中に発作型、脳波像、基礎疾患を総合的に評価、追跡することによって、予後予測が可能であると考えられる。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、小児てんかんを臨床神経生理学的に研究したものであるが、従来あまり調べられていなかった乳児早期発症の局在関連性てんかんの臨床的脳波学的特徴について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。